

tansei.shareholders  
**Tanseisha**

第50期

中間株主通信

2007.4.1 ▶ 2007.9.30



表紙写真 国立科学博物館 日本館 フタバスズキリュウ

 丹青社

# Topics

トピックス

日本人と自然コーナー エントランス



## 大規模プロジェクトに 会社の垣根を越えて一致団結

国立科学博物館「日本館」

東京・上野公園の国立科学博物館の旧「本館」が改修工事を終え、2007年4月17日、新たに「日本館」としてオープンしました。

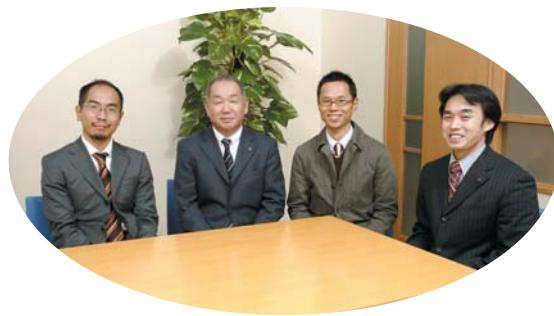
国立科学博物館は構想を含め約14年かけて大規模工事を実施し、2004年11月に新館「地球館」が本格的オープンを迎え、同時に、旧「本館」(1930年完成)の改修工事に着手しました。1877年創立の歴史ある国立科学博物館の新築、大改修という「国家プロジェクト」にあたり、当社は共同企業体(以下、「JV」)の一員として参画し、至高の作品を作り上げることができました。



左/ミュージアムショップ  
右/中央ホール吹き抜け



日本人の旅コーナー



左から 営業本部 文化空間統括部 文化1部 工藤 篤  
クリエイティブデザインセンター 宮田 昭男  
制作本部 TLCCセンター 技術部 松田 浩之  
制作本部 TLCCセンター 戦略企画部 松山 新吾

「日本館」のテーマは「日本列島の自然と私たち」で、このテーマの理解を促進するため、展示内容が各室とフロア全体で一貫性のある流れになっていることが特徴です。建物自体が高い歴史的価値を持つ保存対象物であり、展示物でもあるため、完成までには様々な配慮が必要でした。趣のある建物と新しい展示が調和するための工夫や、時代遅れとなった照明設備の手当てなどを行いました。その他にも、障害者だけでなく、あらゆる年齢層や外国人にも受け入れられやすいユニバーサルデザインに取り組むなど、建物の制約を受けながらも、最先端の技術的配慮を施しました。

このたびの「日本館」プロジェクトにおけるJVの特徴は、全展示フロアにおいて会社の垣根を越えた混成チームで共同作業を行ったことです。基本設計(デザイン)、実施設計の設計段階においては、共通の学術的・展示的基準のプラットフォームを作り、設計にあたりました。そして、施工段階においては、共同作業を行うための統一ルールの策定から着手しました。これらの過程では、各段階の手順を確認し合うことで、最善の方法による作業が可能となりました。この様に切磋琢磨して得た成果は、今後の事業展開に大いに貢献するものと期待しています。

# Top Message

トップメッセージ



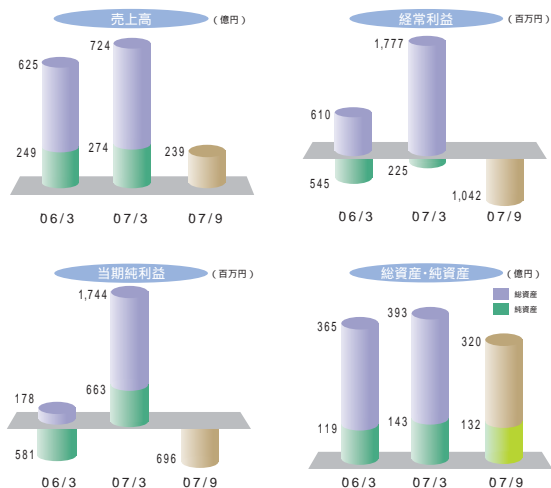
株主の皆様には、  
平素より格別のご支援を賜り、  
御礼申し上げます。  
私たち丹青グループは、  
空間づくりにおける品質・安心・安全を  
トータルに提供してまいります。

代表取締役社長 **渡辺 亮**

## 連結財務ハイライト

期 別	(百万円)		
	2006/9	2007/9	2007/3
売上高	27,404	23,995	72,449
営業利益	303	1,116	1,707
経常利益	225	1,042	1,777
当期純利益	663	696	1,744
期末			
総資産	35,147	32,021	39,316
純資産	13,332	13,213	14,380
1株当たり			
当期純利益(円)	27.85	28.14	71.94
純資産(円)	540.47	533.57	581.39

(注) 当グループは事業の性質上、2月、3月の売上高が他の月に比べて著しく高くなる傾向にあり、その影響が損益計算書にあらわれます。



## 業績の概況

当中間連結会計期間における日本経済は、個人消費は引き続き横ばいとなったものの、緩やかに増加を続ける輸出に牽引され、概ね拡大基調にて推移しました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましては、小売業による店舗投資の増加などが下支えとなり、景気の回復に伴い底堅く推移しました。

このような状況のもと丹青グループは、お客様の信頼を獲得できる優れたサービスの提供を目指し、子会社の再編をはじめとするデザイン・制作機能を向上させるための各種施策を実施してまいりました。また、不動産アセットマネジメント事業を事業内容とする専門子会社、株式会社丹青アセットマネジメントを設立するなど、新たな成長分野にも積極的に進出してまいりました。

しかしながら、競合他社との競争は引き続き激しく、受注環境は依然として厳しい状況が続きました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は239億95百万円(前年同期比12.4%減)となり、営業損失は11億16百万円(前年同期 営業損失3億3百万円)、経常損失は10億42百万円(前年同期 経常損失2億25百万円)、中間純損失は6億96百万円(前年同期 中間純利益6億63百万円)となりました。

なお、当グループの売上高は、事業の性質上、2月、3月に完成する工事の割合が大きいことから、著しい季節的変動が存在します。

## セグメント別の業績

商業施設分野では、「ユナイテッドアローズ銀座店」や「ユニクロ ヨドバシ吉祥寺店」などの新装工事を手がけ、衣料専門店市場の売上は前年同期を上回ったものの、大型ショッピングセンターが減少したことなどにより、大型店市場の売上は前年同期を下回りました。この結果、商業施設分野の売上高は147億2百万円(前年同期比12.7%減)、営業利益は7億73百万円(前年同期比27.1%減)となりました。

恒久展示施設分野では、「富士通 netCommunity(ネットコミュニティ)」

などの企業ショールームのリニューアル工事を手がけたことにより、ショールーム市場の売上は前年同期を上回りました。また、「国立科学博物館 日本館」などの大型文化施設の展示工事を手がけ、博物館市場の売上も前年同期を上回りました。この結果、恒久展示施設分野の売上高は17億46百万円(前年同期比27.8%増)、営業損失は1億35百万円(前年同期 営業損失1億97百万円)となりました。

短期展示施設分野では、「幕張光の祭典 イルミネーションモール2007」などを手がけ、イベント市場の売上は前年同期を上回りましたが、展示会市場の売上は前年同期を下回りました。この結果、短期展示施設分野の売上高は12億96百万円(前年同期比13.3%減)、営業損失は91百万円(前年同期 営業利益77百万円)となりました。

その他の分野では、「南アフリカ大使館」の新装工事を手がけ、オフィス市場の売上は前年同期を上回ったものの、アミューズメント施設市場やホテル市場の売上は前年同期を下回りました。この結果、その他の分野の売上高は62億49百万円(前年同期比18.9%減)、営業利益は3億46百万円(前年同期比40.3%減)となりました。

## 株主の皆様へ

当社は、コーポレートガバナンスの確立を経営の重要課題のひとつであると認識し、効率的で透明性の高い経営体制の確立に努め、永続的に成長する企業を目指しています。

また、長期的な観点に立ち資本の充実を助案しながら、株主の皆様には収益の状況に応じた配当を行うことを基本とし、この方針に基づき配当性向等を考慮し利益の配分を行っております。

なお、平成20年1月期の配当につきましては、従来の配当水準を考慮し、年間普通配当10円の約10ヵ月分である1株当たり8.5円(期末配当金8.5円)を予定しております。

今後とも株主の皆様には、未永い当社へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算期の変更について：当社は、事業の繁忙期と決算期の重複を避け、効率的な業務運営と適切な決算開示を推進する目的から、平成19年6月28日開催の第49回定時株主総会決議により、毎年3月から毎年1月へと決算期を変更いたしました。これにより、決算期変更の経過期間となる平成20年1月期は、平成19年4月1日から平成20年1月31日までの10ヵ月決算となります。

# Speciality

スペシャリティ

## 商業施設

### 立地を活かしたライフスタイル提案型店舗

東急ハンズ銀座店

2007年9月1日、東京・銀座に完成した新名所「マロニエゲート」に「東急ハンズ銀座店」がオープンしました。

ビルの5階から9階までを占める東急ハンズは「銀座」という立地を踏まえつつ、主に20代、30代の女性や湾岸エリアのファミリー層をターゲットに「ライフスタイル提案型店舗」を目指して誕生しました。

近年、銀座・有楽町エリアには、新たな商業施設が相次いでオープンしています。激しい競争のなか、当社は、立地条件などを精査し、東急ハンズの「トータルに雑貨を扱う店」としての強みを活かし、視覚効果も考えた売り場づくりに努めました。

ビルの形状は回遊動線が作りにくいL字型をしています。フロアの両端部に特設コーナーを設けることで来店者の興味を喚起し、回遊を促す効果を狙いました。また、商品の陳列には、ゆとりを持たせて一般の売場と差別化し、まるで別のテナントが入っているようなイメージの醸成に努めました。このコーナーは、フロア形状の欠点をカバー



エントランス

ーするだけではなく「新たなライフスタイルの提案」という目的にも効果を発揮しています。

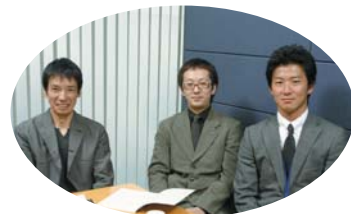
顧客からの高いニーズに応じ、東急ハンズのイメージを一新するような空間づくりに努め、高い評価を得ることができました。これからも顧客との信頼関係を一層強固なものにするべく、日々、技術の向上やノウハウの蓄積に努めたいと考えています。



ナチュラルコスメ



トーキーョ・エクスプローラー



左から  
(株)丹青IDS 商環境デザイン2部  
小野 浩  
制作本部 第1制作統括部 制作5部  
市原 修  
営業本部 第2商空間統括部 営業2部  
三石 俊治

## 恒久展示施設

### 国内初の博物館PFI事業に参加

海上自衛隊呉史料館「てつのくじら館」

2007年4月5日、広島・呉に海上自衛隊呉史料館(愛称:「てつのくじら館」)がオープンしました。海上自衛隊に対する理解の促進および地域との共生に貢献することを目的とした同施設は、退役した潜水艦を実物展示するという画期的な博物館であり、同時に、国内初のプライベート・ファイナンス・イニシアティブ(以下、「PFI」)方式を導入した博物館としても注目を集めています。

PFIとは、公共施設などの建設や運営を民間に委託するシステムです。当社は、同施設の展示設計・施工、運営に参画しています。海上自衛隊の歴史や活動などの展示内容の理解促進のため、潜水艦と館内の両方の展示物の連続性を維持し、展示フロアに一切、柱を設置しないなどの工夫を施しました。潜水艦の中も公開されており、全体が「見て」、「触って」、「体感する」博物館となっています。これらが功を奏し、入場者数は当初の予想を上回り、8月末時点で30万人を超え、年間50万人に達する見込みです。



史料館に展示されている引退潜水艦「あきしお」

また、設計・施工のみならず、展示施設の運営のノウハウもある当社は、同プロジェクトの運営方法についても主導的な役割を担っています。このたびのプロジェクトは、展示業界が初めて着手したPFI事業であり、日々、試行錯誤しながら運営を行っています。行政の効率化が求められていくなか、今後も様々な事業でPFI方式が導入されると予想されます。当社は、このプロジェクトの運営で新たなノウハウを蓄積し、他の事業の設計・施工、運営にも活かしていきます。



潜水艦とは何か? [潜水艦のしくみ]



私たちと海上自衛隊 [任務と活動]



上段左から

営業本部 コミュニケーションデザインセンター CD部 吉田 真司  
営業本部 文化空間統括部 文化1部 工藤 篤

下段左から

クリエイティブデザインセンター 設計2ルーム 粟田 嘉隆  
クリエイティブデザインセンター 設計2ルーム 藤井 明文  
営業本部 文化空間統括部 推進室 石川 明夫  
制作本部 第2制作統括部 制作3部 河村 徹

# Speciality

スペシャリティ

光のゲート

## 短期展示施設

### 真夏の夜を彩る涼しげな輝き

幕張光の祭典 イルミネーションモール2007

2007年7月25日から8月12日までの19日間、千葉・幕張新都心の空中公園「メッセモール」を膨大な数の発光ダイオード（以下、「LED」）で彩るイルミネーション・イベント「幕張光の祭典 イルミネーションモール2007」が開催されました。

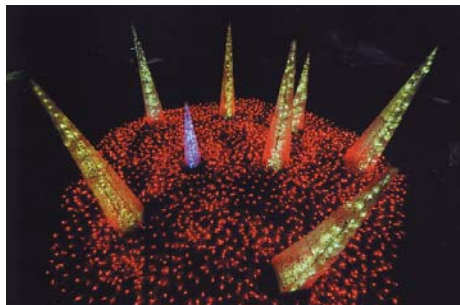
12の星座をテーマにした装飾が全長約600mにも及ぶ公園を埋め尽くし、その中心には、直径約16m、高さ約9mの光のシンボル「天の川」が夜空を高く照らし、ピアガーデンも営業され、イルミネーション・

イベントとしては大規模なものとなり、期間中は予想を上回る25万人もの来場者を魅了しました。

また、多くのイルミネーション・イベント

がクリスマスシーズンに行われているのに対し、このイベントでは、LEDの青や白の寒色系の光を活かして熱い真夏の夜に清涼感をもたらしめました。通常は電球を使用しますが、LEDを使用することによって消費電力の大幅な節約を行ったという点においても大きな意味を持ちます。

幕張は、幕張メッセをはじめ、数々のオフィスビル、ホテル、商業施設などが存在し、日中は大勢の人々が集う場所ですが、オフィスビルが集積するメッセ周辺を夜間も賑わいのある街とすべく、地元の官公庁や経済団体などで構成された「幕張光の祭典実行委員会」の主催で初めてこのイベントが開催されました。当社は、イベント内容を主導的に立案し、設計・施工、運営にいたるまで一貫した面で大きな役割を果たしました。入場者の多くを占めた仕事帰りのサラリーマンや近隣の新興住宅地の住民から大きな反響があり、今後も真夏恒例のイベントとして定着することが期待されています。



左 / シンボル「天の川」 右 / ピラミッド型モニュメント



左から  
営業本部 第2IMC統括部 開発1部  
東中川 華子  
営業本部 第2IMC統括部 開発1部  
朝比奈 昌光

## その他の施設

### 「琉球モダン」がコンセプトの新リゾート

沖縄ナハナ・ホテル&スパ

2007年7月、沖縄・那覇に「沖縄ナハナ・ホテル&スパ」がグランドオープンしました。イン・ホテルズ・グループが旧「ホテルグランドオーシャン」を取得して全面改装したもので、地上12階、地下1階で、客室数は200室に及びます。レストランやバーのほか、市内最大級のスパ施設も備えた、シティリゾートホテルです。

当社は、客室、レストラン、ロビーなど、ホテル全体のデザインの企画・立案から基本設計・デザイン監修を手がけました。

同ホテルのコンセプトは「琉球モダン」。沖縄らしさを感じさせる様々なモチーフを、いかに現代風に解釈して表現するかという点がポイントでした。その最たる例が、ロビーに配した琉球ガラスのオブジェです。

当社のデザイナーが琉球ガラスの工房に通って研究を重ね、色や形の異なる200枚もの小さなパーツを制作し、2階から地下1階まで吹き抜けのエントランスロビーに吊り下げ、花びらが宙に舞っている姿を



ホテル1階ロビー(吹き抜けに琉球ガラスのオブジェ)

表現しました。

現在、ホテルは街なかに並ぶ質の高いショップやレストランとの差別化を図る必要に迫られています。今回のプロジェクトでは、多彩な商業施設を手がけてきた当社のノウハウを活かし、従来とは異なった視点で「新しい」「かつ」「楽しい」ホテルのあり方を示すことができました。

今回の経験や実績は、今後の当社の事業展開の幅を広げることにもつながっていくと考えています。



Bar Ren(琉球王国をイメージ)



ゲストルーム



左から  
(株)丹青IDS プランニング・デザイン3部 運見 淳一  
(株)丹青IDS プランニング・デザイン2部 石井 康祐  
営業本部 第1商空間統括部 営業1部 金高 拓文

# Works

ワークス

商業施設



とらや 東京ミッドタウン店



キュージーヌ「エスト」、ダイニング&バー「オーヴェスト」



ユニクロ ヨドバシ吉祥寺店

恒久展示施設



ソニー歴史資料館



国立ハンセン病資料館



FUJIFILM SQUARE

短期  
展示  
施設



第18回設計・製造ソリューション展 三菱電機ブース



JR東日本展 “鉄道のデザイン～過去から現代・未来へ～”



CEATEC JAPAN KDDIブース

その他



トウニー・ヨコハマ



八雲立つ風土記の丘 展示学習館



ロイヤルパークホテル コーヒーショップ シンフォニー  
(写真提供：株式会社ロイヤルパークホテル)

# Consolidated Financial Statements

## 中間連結財務諸表

### 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前中間期末 (平成18年9月30日現在)	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前期末 (平成19年3月31日現在)
(資産の部)	(35,147)	(32,021)	(39,316)
流動資産	26,679	23,492	30,704
現金預金	5,411	5,330	4,718
受取手形・ 完成工事未収入金等	13,432	9,462	21,649
未成工事支出金等	6,906	7,162	3,343
その他	965	1,568	1,041
貸倒引当金	37	31	48
固定資産	8,468	8,529	8,611
有形固定資産	3,366	3,414	3,386
建物・構築物	1,602	1,675	1,611
機械・運搬具・ 工具器具備品	491	531	516
土地	2,749	2,749	2,749
建設仮勘定	1	—	21
減価償却累計額	1,479	1,541	1,513
無形固定資産	159	153	153
投資その他の資産	4,943	4,961	5,071
投資有価証券	3,116	2,760	3,156
その他	2,024	2,426	2,137
貸倒引当金	197	225	222
資産合計	35,147	32,021	39,316

科 目	前中間期末 (平成18年9月30日現在)	当中間期末 (平成19年9月30日現在)	前期末 (平成19年3月31日現在)
(負債の部)	(21,815)	(18,808)	(24,935)
流動負債	20,659	17,414	23,712
支払手形・工事未払金等	11,079	8,957	15,225
短期借入金	3,700	3,700	4,000
一年以内償還予定の社債	300	—	—
未成工事受入金	3,654	2,731	801
賞与引当金	924	907	1,140
役員賞与引当金	23	7	80
完成工事補償引当金	45	85	57
工事損失引当金	64	126	16
その他	868	899	2,391
固定負債	1,155	1,393	1,222
社債	—	300	—
退職給付引当金	38	36	36
役員退職慰労引当金	413	181	426
その他	703	875	760
(純資産の部)	(13,332)	(13,213)	(14,380)
株主資本	12,508	12,642	13,495
資本金	4,001	4,026	4,017
資本剰余金	3,999	4,024	4,015
利益剰余金	4,538	4,626	5,495
自己株式	29	35	33
評価・換算差額等	817	564	875
その他有価証券評価差額金	808	552	864
為替換算調整勘定	8	12	10
少数株主持分	6	6	9
負債純資産合計	35,147	32,021	39,316

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	(自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)	(自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)
売 上 高	27,404	23,995	72,449
売 上 原 価	23,546	20,947	61,959
売 上 総 利 益	3,857	3,047	10,490
販売費及び一般管理費	4,161	4,163	8,782
営業利益又は営業損失( )	303	1,116	1,707
営業外収益	137	161	222
営業外費用	58	87	153
経常利益又は経常損失( )	225	1,042	1,777
特 別 利 益	1,874	64	1,897
特 別 損 失	416	57	449
税金等調整前中間(当期)純利益 又は税金等調整前中間純損失( )	1,232	1,035	3,225
法人税、住民税及び事業税	32	39	927
法人税等調整額	538	375	553
少数株主利益又は 少数株主損失( )	2	3	0
中間(当期)純利益 又は中間純損失( )	663	696	1,744

## 中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自平成19年4月1日至平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数 株主 持分	純 資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資 本合計	その他 有価証 券評価 差額金	為替換 算調整 勘定	評価・ 換算差 額等合計		
平成19年3月31日残高	4,017	4,015	5,495	33	13,495	864	10	875	9	14,380
中間連結会計期間中 の 変 動 額										
新 株 の 発 行	9	8			18					18
剰 余 金 の 配 当			173		173					173
中 間 純 損 失			696		696					696
自 己 株 式 の 取 得				2	2					2
自 己 株 式 の 処 分		0		0	0					0
株主資本以外の項目 の中間連結会計期間 中の変動額(純額)						312	1	310	3	314
中間連結会計期間中の 変 動 額 合 計	9	9	869	2	853	312	1	310	3	1,167
平成19年9月30日残高	4,026	4,024	4,626	35	12,642	552	12	564	6	13,213

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	(自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)	(自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		60	1,223
投資活動によるキャッシュ・フロー		122	457
財務活動によるキャッシュ・フロー		532	156
現金及び現金同等物に係る換算差額		1	1
現金及び現金同等物の増加・減少( )額		592	611
現金及び現金同等物の期首残高		6,004	4,718
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		5,411	5,330

# Corporate Data

## 会社情報

(2007年9月30日現在)

### 会社の概要

商号	株式会社丹青社
設立	1959年12月25日
資本金	4,026,750,657円
上場	東京証券取引所市場第一部
従業員数	871名(連結1,379名)
主要事業内容	国内外見本市、博覧会、展覧会、百貨店、ショッピングセンター、専門店、一般小売店、ホテル、レストラン、ショールーム、オフィス、博物館、科学館等の調査、企画、設計、施工、監理、運営管理

### 事業所

本社	東京都台東区上野5丁目2番2号 Tel. 03(3836)7221
札幌支店	札幌市中央区北1条西3丁目3番地(札幌MNビル) Tel. 011(271)0725
東北支店	仙台市青葉区本町2丁目1番7号(本町奥田ビル) Tel. 022(264)0764
名古屋支店	名古屋市中区錦3丁目24番17号(日本生命栄町ビル) Tel. 052(957)7531
関西支店	大阪市北区堂山町3番3号(日本生命梅田ビル) Tel. 06(6313)5200
九州支店	福岡市博多区博多駅前3丁目25番24号(八百治ビル) Tel. 092(472)1901
沖縄支店	那覇市久米2丁目4番14号(JB・NAHAビル) Tel. 098(951)1115



### 役員

代表取締役社長	渡辺 亮
取締役副社長	萩原 亞海
取締役専務執行役員	青田 嘉光(クリエイティブデザインセンター長、株式会社丹青研究所代表取締役社長)
取締役常務執行役員	鈴木 義隆(経営管理本部長)
取締役常務執行役員	北原 聡(制作本部長)
取締役常務執行役員	伊藤 芳晃(営業本部長、丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司董事長、北京丹青嘉輝建築裝飾有限公司董事長)
取締役上席執行役員	澤田月来男(リテールクリエイションセンター長兼新事業支援室長、株式会社丹青モールマネジメント代表取締役社長)
常勤監査役	重政 俊夫
監査役	余田 幹男
監査役	荒川 洋
監査役	山田 博重
上席執行役員	鈴木 清明(経営管理本部副本部長)
上席執行役員	石井 款(制作本部TLCCセンター長)
上席執行役員	高橋 貴志(制作本部第1制作統括部長)
執行役員	森 俊憲(プロジェクト推進室長兼プロジェクト推進部長)
執行役員	橋本 俊朗(ストアエンジニアリング事業部長)
執行役員	伊藤 文雄(ストアエンジニアリング事業部副事業部長)
執行役員	家入 幸弘(営業本部エリア統括部長)

### 連結対象会社

株式会社丹青TDC  
株式会社丹青ビジネス  
株式会社丹青研究所  
株式会社丹青ディスプレイ  
株式会社丹青インテグレイテッドデザインスタジオ(丹青IDS)  
株式会社ゲーム  
株式会社丹青モールマネジメント(TMM)  
株式会社丹青ヒューマネット  
株式会社ティーアンドティー  
株式会社丹青アセットマネジメント  
丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司  
北京丹青嘉輝建築裝飾有限公司

# Stock Data

## 株式情報

(2007年7月31日現在)

決算期を3月から1月に変更したことに伴い、当事業年度は10ヵ月となり、証券保管振替機構からの当中間期末における実質株主の通知が行われないため、「株主数」、「大株主」、「所有者別状況」につきましては、平成19年7月31日現在の内容を記載しております。

### 株式の総数

発行可能株式総数 ..... 72,000,000株

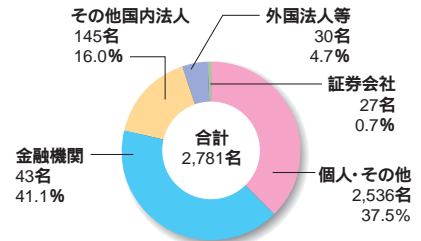
発行済株式総数 ..... 24,829,857株

株主数 ..... 2,781名

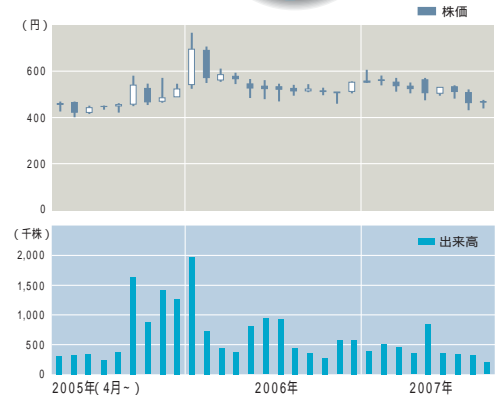
### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	1,250	5.0
丹青社従業員持株会	1,203	4.8
丹青社取引先持株会	1,202	4.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,103	4.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,086	4.4
株式会社みずほ銀行	1,078	4.3
株式会社三井住友銀行	1,028	4.1
第一生命保険相互会社	978	3.9
日本生命保険相互会社	926	3.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	567	2.3

### 所有者別状況



### 株価



### 株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
単元株式数	1,000株
基準日	定時株主総会 1月31日 期末配当金 1月31日 中間配当金 7月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
ご連絡先(郵送先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告掲載URL	<a href="http://www.tanseisha.co.jp/">http://www.tanseisha.co.jp/</a>

平成19年6月28日開催の第49回定時株主総会において、決算期が次のとおり変更されました。

変更前 毎年3月31日

変更後 毎年1月31日

決算期変更の経過期間となる第50期は、平成19年4月1日から平成20年1月31日までの10ヵ月となります。



当社のHPでは最新のIRニュースや株式情報をご覧いただけます。  
また、広報誌のHP「tansei.net」では、  
空間・建築に関する様々な情報を発信しています。  
ぜひアクセスしてみてください。

<http://www.tanseisha.co.jp>



社名の由来 「丹青」とは、中国から伝わった言葉であり、古くは画家のことを指した。唐の詩人、杜甫の七言古詩にも使われている。

丹青知らず、<sup>お</sup> <sup>まさ</sup> <sup>いた</sup> <sup>ふ</sup> <sup>き</sup> <sup>わ</sup> <sup>おい</sup> <sup>ふ</sup> <sup>うん</sup> <sup>ごと</sup>  
 老いの将に至らんとするを。富貴は我れに於て浮雲の如し。(杜甫「丹青引、曹將軍霸に贈る」)  
 絵を描くことに熱中して歳をとることも忘れ、世の中の富貴、栄華などは、浮雲のように頼りないもの思っている。

撮影者：エスエス企画、池田 敬、石井 紀久、ヴィスタジャパン 廣崎 節雄、奥村 浩司、工藤 明敬、鈴木 賢一、築地 耕一、  
 ナカサ&パートナーズ、花村 秀雄、馬場 祥光、林 拳示郎、ピップス、フォトクラフト社、柳内 正義、山口 正勝